

図書館便り

令和6年12月4日
万代高校図書館

突然ですがこの時期によく耳にする「〇〇の秋」という言葉の起源をみなさんは知っているでしょうか。

実は〇〇の秋という言葉にはそれぞれ違った由来があります。例えば「食欲の秋」は、秋が農作物の収穫が豊かだったり、人の生き物としての本能で冬に備えて脂肪分を蓄えようとしているなどの理由があります。また、「読書の秋」は古代中国の詩人で韓愈（かんゆ）という人物が詠んだ漢詩に関係があるそうです。これらはあくまで1つの説ですが気になる人は、調べてみると面白いかもしれません。

ところで、今年度から図書委員会では、コロナ禍で中止になっていたブックトークを再開しました。11月13日に行われたトークでは、新潟市出身の文豪である坂口安吾氏の息子、坂口綱男さんをお招きし講演をしていただきました。当日は席が足りなくなるほどの方にお越しいただき、とても嬉しく思います。今回の講演に参加できなかった方も、2025年1月9日まで、ほんぽーと新潟市立中央図書館2Fで坂口安吾氏の特別コレクションをみることができます。興味のある方は、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。普段本を読む機会が少ない人でも、このような講演や場所を訪れることで、読書に親しみを持つ良い「きっかけ」になるのではと思います。

寒さも一段と厳しくなり、なかなか新しいことや挑戦を始めるのは難しいかもしれませんが、何かを始めるときは些細なことでも良いので「きっかけ」を作ることが大事ではないでしょうか。勉強を始めるために、まずは立ち上がってみて、とりあえず机に向かってみたり。読書始めるためには、学校の帰りに図書室に少し立ち寄ってみたり。または、普段読むことがあまりないこの図書館便りを読んでみたり…。うまくきっかけを作れば時間を無駄にすることなく、上手に生活を送れるようになるかもしれませんね。

(図書委員会2年)

国語科W先生のオススメの本

2024年、年末に本を読む…あなたはどちら？

ミステリでハラハラしたい → A

青春小説でドキドキしたい → B

①「高校入試」 著：湊かなえ

県下有数の公立進学校・橘第一高校の入試前日、「入試をぶつつぶす！」と書かれた貼り紙が！迎えた入試当日。試験内容がネット掲示板に次々と実況中継されていく。遅れる学校側の対応、保護者からの糾弾、受験生たちの疑心。教員が事件解明のため奔走するが……。誰が嘘をついているのか？入試にかかわる全員が容疑者？

(W先生コメント)

作者の湊かなえさんにはまって、ほぼすべての作品を読みました。湊さんの作品は、登場人物の視点、一人称で物語が進んでいきます。一人ひとりがかつ秘密が絡み合い、ミステリを深め、最後に謎が解ける…みなさんも、真剣に取り組んだ高校入試を様々な立場から描く作品です！

『イヤミスの女王』と呼ばれる湊かなえさんの作品の中では、爽やかな読後感が特徴です。『イヤミス』を味わいたい方には「告白」、「Nのために」もオススメです。

②「風が強く吹いている」 著：三浦しをん

箱根駅伝を走りたい—そんな想いが、動き出す。「駅伝」って何？走るって何だ？十人の個性あふれるメンバーが、長距離を走ること(=生きること)に夢中で突き進む。自分の限界に挑戦し、ゴールを目指して襷を繋ぐことで、仲間と繋がっていく—純度100パーセントの疾走青春小説。

(W先生コメント)

お正月といえば、箱根駅伝！この作品を読めば、箱根駅伝が10倍おもしろくなるでしょう。この作品の初出場を目指す寛政大学の十人のランナーの中に、きっとあなたも共感する選手がいるはず…みなさんも、箱根駅伝という目標に向けてひたむきに走る選手を応援したくなる胸熱の作品です！

913 ア

「六人の嘘つきな大学生」

(浅倉秋成)

映画公開中！嘘つきたちによる究極の心理戦！

IT企業の最終選考に残った6人の大学生。最後の課題は「6人で最高のチームを作り上げる」ということだったが、突然「6人の中から内定者を1人だけ決めること」に変更される。戸惑いつつ議論を進める6人は、怪しい6通の封筒を発見する。中には「人殺し」「詐欺師」「犯罪者」など6人それぞれを告発する衝撃的な内容が書かれていた。次々と6人の「嘘」が暴かれていく――。

新しく図書館に入った本を紹介します。

新刊紹介

368 サ

「あなたとあなたの大切な人を守る 捜査一課式防犯BOOK」

(佐々木成三)

日本が安全大国だったのは今や昔のこと。詐欺、強盗、あおり運転、空き巣、ストーカー…あなたもいつ巻き込まれてもおかしくありません。自分の身を守るにはどうすればいいのか。元捜査一課の刑事さんがその経験と知識をもとに、犯罪に巻き込まれないための防犯テクニックを教えます。

916 モ

「高校生のわたしが精神科病院に入り 自分のなかの神様とさよならするまで」

(もつお)

強迫性障害、摂食障害、精神科病院への強制入院、退院後の再発…
平凡な女子高生だったはずが、気が付くと心の中の神様にいわれるがまま行動するようになっていた。
高校生で精神科病院に入院した女の子の壮絶な日々と回復への道のりを描いたコミックエッセイ。

140 ニ

「「かわいい」のちから 実験で探るその心理」

(入野野宏)

「かわいい」ってなんだろう。「かわいい」ものは、私たちにどのような効果を及ぼすのだろうか。
「かわいい」色や形、年齢や性別による「かわいい」の違い、「かわいい」ものに近づきたくなる心理などに実験心理学という手法で迫り、「かわいい」の力を探ります。科学的なアプローチから「かわいい」について考える、新しい「かわいい」論の本。